



いながき

21年度決算を認定

**22年度補正
財政調整基金に10億円を積み増し！**



いとう

平成 21 年度決算は、実質収支8億2,133万8千円、単年度収支でも155万8千円の黒字となった。こうした中、庁舎建設基金2億5千万円の戻し入れや財政調整基金4億1千万円を積み増し、財政基盤を固めるとともに、第4次総合振興計画・後期基本計画や施策大綱に沿った事業が進展しました。

22年度一般会計補正予算では、15億2,416万を追加、歳入歳出総額を185億2,916万1千円に。財政調整基金に10億円を積み増した他、学校や公民館、家庭保育室、学童保育等の施設整備も。

【21年度決算討論要旨 稲垣】

総額 12兆円の経済対策と都市計画税 4億3千万円で一息！

国は20年度第1次・2次の大型補正予算に続き、21年度も総額12兆円の経済対策を打ち出しました。国の借金による大盤振る舞いでしたが、各種補助金や交付金により地方は潤い、市の財政も改善しました。財政力指数は0.88まで上昇し、財政健全化指標の経常収支比率は84.2%、公債費比率5.6%と過去5年間で最低に。新たな財源としての『都市計画税』4億3千万円の寄与も大きな要因でした。

庁舎建設基金 2億5千万円を戻し入れ、財政調整基金 4億1千万円積み増し

20年度に続き21年度も2億5千万円を返済し、庁舎建設基金からの借り入れはゼロとなりました。また、財政調整基金も4億1千万円を積み増し、今後の財政不足や緊急時対応に備えました。(H22 年9月補正でさらに10億円を積立て、現在は15億4,983万円)。

まちづくり交付金や雇用対策補助金を活用し事業を推進

学校整備では、三輪江小校舎の耐震診断調査と耐震補強・大規模改修工事設計、三輪江小・南中学体育館の耐震診断を実施。パソコンの入替え、デジタルTV・電子黒板・太陽光発電等の整備。定額給付金は24,500世帯へ総額9億6,300万円を支給。食育推進計画の策定、吉川産米「米粉パン」給食の導入。入院医療費の中学卒業まで拡大、妊婦検診を14回に拡充。配偶者暴力支援センターの設置。

『新駅』は23年度開業へ向けた設置工事施行協定を締結。第2フレンドパークとおあしすの指定管理移行準備の完了。中央土地地区画整理地内調整池暫定稼働による浸水被害の軽減の他、新栄地区道路整備などが進展しました。国の経済対策という背景は大きいものの、まちづくり交付金や各種補助金を積極的に活用し、事業の推進を図ったことは評価でき認定に同意しました。

課題は山積み、市政への要望と期待について3点を要望

今後については、徹底したコスト削減、ムダの排除、事業の選択と集中、効率的行政運営が求められ、いちだんの情報開示と説明責任を果たすことを期待します。また、市職員の専門性と意識の向上及び信頼に基づく「協働」の推進が課題となります。さらなる、『行財政改革の推進』『開かれた市政』『市民要望の把握と対応力向上』の3点について実効性ある取組みを要望し、賛成の討論としました。(稲垣記)

いながき・いとうの

9月議会報告

10月17日(日)午前10時30分～

おあしすセミナールーム

どなたでも

いながき 茂行 栄町782番地1C-1101 TEL 983-1628

Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com

いとう 正勝 きよみ野2-8-2 TEL&FAX 983-1117

Eメール itoh72@nifty.com

市民改革クラブ ホームページ開設

<http://www.geocities.jp/kaikakuclub>

高齢者所在不明問題 と高齢者福祉 いながき 茂行

足立区千住で、『111歳』のミイラ化した男性が見つかり、その長女と孫娘が年金の不正受給で逮捕されるなど、所在不明問題は、私たちに衝撃を与え、改めて高齢者の置かれている状況、家族、地域、行政の問題点を浮き彫りにしました。孤独死、貧困、葬儀、家族や地域との関わり、行政の縦割りなど。一般質問で取り上げ、市の基本的な考え方を確認しました。

**100歳以上6人、
戸籍上生存者70人**

市では、100歳以上6名のうち5人は特別養護施設等、1名は在宅を確認。また、75歳以上の高齢者3,747人中114人について、民生児童委員の協力により面接調査を実施。4名については本人確認が出来なかったが、年金の不正受給につなが

る事例はない。

戸籍上生存扱いとなっている方は70名。この内、住民票がない67人については、法務省と協議し職権による削除を予定。残る3名の生存は確認。

個人情報活用と 庁内の連携

『高齢者』がどこに、どんな状況で暮らしているのかわからなければ、支援は出来ません。とりわけ、一人暮らし高齢者の把握は、介護や災害時の対策を行う上で重要です。

これまでも繰り返し提言してきた、地域包括支援センターや社会福祉協議会の拡充、地域のネットワークづくりと、ご近所福祉活動の推進を求めるとともに、個人情報の活用と庁内の連携について質しました。地域包括と民生児童委員に対しては、様々なサポートが出来るよう「住所・氏名・生年月日・性別」を、必要に応じ「家庭状況」を提供している。所在不明者については、住民基本台帳

の正確性を保つため、福祉・税務・選管・教育委員会と市民課が連携している。とのこと。

福祉葬祭制度と 集合墓地建設を提言

急速に進む高齢化社会、独居世帯も増加する中、私たちの葬儀やお墓に対する考え方も変化しています。

職場や地域の義理や業者の押し付け葬儀から、温かく送りたいと家族葬やお別れ会等実質本位へ。お墓についても、合葬式墓地を始め小区画修景墓地や樹林・樹木墓地を望む人が増加しています。自然に還りたい・承継する人がいない・小さくても安いお墓を・身近な所に作ってほしいとの望みです。

草加市が今年、8月から始めた福祉葬祭制度(基本仕様25万円と15万円。市補助20万・10万)や東京都の霊園についての答申等を参考に研究・検討するよう提言しました。『お一人様福祉』の時代でもあります。

9月議会は9月2日から24日まで開催。22議案を全て可決。

主な議案は●市条例の一部改正(ひとり親家庭の医療費支給・職員の分限に関する手続き)及び武蔵野操車場跡地に関する町名検討委員会条例の特例●工事請負契約(中央土地区画内調整池公園)●教育委員の任命(星加里恵子氏)●21年度決算の認定●22年度補正予算について等

一般会計補正予算

歳入歳出に15億2千4百万を追加。主な歳出は、財政調整基金への積立10億の他、学校施設整備事業・中央公民館音響設備改修・道路補修工事・グループホームのスプリングラー補助・や家庭保育室(新たに2園)・学童保育室(栄小、一クラス増設)整備等。

21年度決算討論

稲垣が賛成討論に立ち提案・要望(1ページ参照)

委員会質疑

総務水道委員会(稲垣)、文教福祉委員会、(伊藤)が補正予算と21年度決算に関連し、数十項目にわたる確認、指摘、要望を交えて質問。

一般質問

- ① 高齢者所在不明問題と高齢者福祉について (稲垣)
- ① 危機管理の視点から(市内停電・異常気象・猛暑) ② 第5次総振関連(新駅・駅南小学校・市庁舎建設)について(伊藤)





・10年を展望 新庁舎は必要か いとう 正勝

平成24年度から10年間を展望しての第5次総合振興計画の策定作業が始まった。市長は4選出馬の意慾も示している。新庁舎についてその必要性、時期、仕様、課題などあらためて伺いたい。春日部市と合併した庄和町では自慢の庁舎を図書館と児童センターに改装。議場は児童の遊び場になる。時代と地域の変化を見据えた取り組みが必要だ。

急務だが 多くのハードルも

市長は▽現庁舎は狭く、スペース不足▽昭和43年建設で耐震上の問題もある。▽きよみ野（おあしす前）に6千㎡の用地をすでに確保している。気持ちとしては新庁舎は必要であり急務と考えたと述べた上で▽財政問題、経済情勢の変化を見つめ、▽市政としての優先課題は何か▽市民への説明と合意形成など問題点を整理しきびしい状況がクリアできれば早く建て

ることが大事だと思う。第5次総振策定の中で検討するとの考えを明らかにした。

新設小学校の概要 小、中併設の考えは

駅南に25年度開校予定の新小学校教育についても継続して質問。概要について説明を求めるとともに流山市では同じUR（都市再生機構）開発のエリアで小、中併用の学校を26年度に設けることも紹介。人口変動のフレーム、児童、生徒の推移など全面的に総合振興計画を見直す中で、小学校2校、中学校1校の構想を当面小、中学校併設1校にした経過も――。

吉川小と同じ複合化 併設は考えない

教育長は新設小学校は▽吉川小と同じ複合化で建設。▽地区公民館▽高齢者ふれ合い広場▽児童保育室などを配置。▽関係住民によるワークショップも3回開催▽23年3月までに基本、実施設計▽23、24年の2年間で建設▽用地の取得については現在URと協議中との考えを明らかに。▽市内学区の全面

的な見直しの作業を進めるが▽小、中併設の考えはない、と述べた。

新駅は24年3月開業 混雑解消への誘導を

新駅設置の目的の一つは現吉川駅の混雑解消。バス路線、道路整備、駐車場設置などの誘導策とともに状況によっては現駅へのラッシュ時のマイカー乗り入れ規制なども検討することが必要ではないか。

東口に暫定駐車場 バス路線は打診中

バス路線については▽運行事業者会議を開いて意向を打診している。▽道路は西口（南）は武操跡地を整備。東口（北）は恒久的には周辺開発整備の中でアクセスを考えるが当面は関係道路の活用を考えている。▽利便性の向上をはかるため東口に暫定駐車場を設置する方針で検討している。▽誘導策を講じた上で尚、混雑が続く場合は先々規制も検討したい。との考えを表明した。

猛暑

猛暑日の連続。夕立も朝立ちもない異常気象。この夏、熱中症で救急車（吉川、松伏）にお世話になったのは38人。去年の7人を大幅に上回る。街路樹はあえぎ、いちよう通りでは「さつき」もダウン。赤茶けた葉が猛暑の名残りをとどめています。

8月下旬。▽街路樹が可哀相。▽どうして散水しないの▽消防車は使えないの▽市民に協力を求めている――そんな声がそこで聞かれ私や稲垣さんにも寄せられました。市の公園課の職員は「業者に連絡したが、散水車が不足のよう――」と困惑顔。上層部に「消防」の活用を含め、早急な取り組みをと提案、要請――。この問題を9月議会でも取り上げました。

猛暑は「災害」。消防法、消防組織法では消防は各種の災害に取り組むと規程。公共の財産や環境に被害を及ぼし、枯れた樹木の補充は税金で賄わねばならない。市長は「消防」については▽よく研究してみたいと述べるとともに▽植物は案外生命力があり、来春には発芽すること――▽散水はやり始めたら継続が必要▽市民への協力要請は「水道水」であり「けが」を負った場合などを考えるとそう簡単ではない――と慎重な構え。

「猛暑」は一過性ではなさそう。どう「みどり」を保全するのか。「知恵」と「市民の協力」についても様々に問いかけています。あなたはどうか考えましょうか。

ピックアップ 小、中学校に扇風機

～保育・児童・生徒関係～



小、中学校の各教室に扇風機2基ずつ設置。各図書室にエアコンを設置。関係予算3,200万円を計上。市内の篤志家から2千万円の寄付を受け、校長会が扇風機設置を提案、要望。工事は冬休みに。9月の2学期に間に合わせることは出来なかったのか。いささかお役所仕事の、スピード感の養成も大事にと指摘しました。

病児、病後児保育室開設 (10月1日)。埼玉クリニック内に。定員4人。開設準備費414万円、年間委託料860万円を計上。登録児114人。緊急の場合にも対応できるとのこと。

家庭保育室 2ヶ所開設。新設は市役所ちかく、9月27日オープン、定員19人。増設は駅ちかく、11月中オープン、定員18人。開設準備経費420万円計上。

おひさま園 (幼児教室) が25年度認可保育園への移行を希望。定員60人。社会福祉法人取得が前提。吉川市が相談に応じている。

第3保育所 民営に。指定管理制度のもとで5年間。苦情はなく好評。23年4月より完全民営化へ。建物は無償譲渡、用地は無償貸与に。現在のKKコビーが別途社会福祉法人を取得し、保育所を経営する見通し。

学童保育室 増設。栄小学校の学童保育室を1クラス増設(23年4月)。現在の建物に隣接、4クラスに。関小は児童増の見通しから、校舎内の学童保育室3クラスを24年4月メドに敷地内に新築移設の予定。

不登校 中学生72人。小学生6人(平成22年3月)。中学に進学すると急増。追跡、調査し未然防止に力を注いでほしい。埼玉県では「八潮が一番多い」と県教委が公表し、八潮市教委が対策を講じたのか、その後大幅に減少と上田知事がコラムで紹介していることも。

子ども医療費 拡充。入院費と同様に通院費も中学生まで、早期に検討。※4選に意欲で市長が表明。

続報『ゴミ減量市民プラン』で第2工場は要らなくなるのでは!

東埼玉資源環境組合 が草加市柿木に建設を計画している第2工場。ゴミ処理施設整備計画では、平成22年度中に工事発注の入札、仮契約・法契約まで完了する予定です。しかし、草加市議会の解散(市議選)の影響で環境組合議会(9月27日予定)が開催出来ず、延期されました。用地買収も遅れており、施設の設計や工事が予定通り進むかは分かりません。第2工場の建設費は199億円、施設の運転経費は20年間で160億円掛かります。5市1町の市民の税金が使われるだけでなく、大気汚染や焼却灰の心配も。

*

『ゴミ減量市民プラン』 によれば、2003年をピークに減少し続けている焼却ゴミは、現在1日平均700t余。しかも、搬入されているゴミの半分近くがリサイクル可能な物。リサイクル可能な紙ごみだけでも、その60%を減量した場合100tになり、日量800tの第1工場で十分処理できます。特に、雑紙(ざつがみ)の資源化が実現できれば焼却量は1日平均600t。十分余裕を持って処理できることになります。

* **ゴミ減量市民プラン:第2工場建設の見直しを求める市民グループ、「ごみ減量市民プランを作る会」** が作成したプラン。6月18日には集会を開催し120名が参加。その後、5市1町の首長に説明し提出(吉川では、7月8日に戸張市長へ提出)

戸田市 では、生ゴミを再資源化して花いっぱいのまちづくりを推進しています。生ゴミを専用のバケツで施設に持ち込むと、花の苗と交換してくれる。拠点となる「リサイクルフラワーセンター」では、生ゴミをたい肥にして花の苗を作っています。フラワーセンターでは、高齢者や障がい者が働いています。ゴミを削減・資源化し、花いっぱいの街を作り、高齢者・障がい者の雇用にも一役買う、すごい取り組みだと思います。循環型社会の実践です。第2工場の建設、皆様はどう思われますか。(いながき)

